

「必須」項目及び「あれば必須」項目について

必須:システムによる値の自動セット或いは必ず入力・選択する項目
あれば必須:可能な限り審査して入力する項目

No.	項目(英語)	項目(日本語)	KBART項目名	必須	あれば必須	KBART1	KBART2	拡張項目	ガイドライン	例
1	Title	タイトル	publication_title	*		*	*		<p>プリント版の刊行物またはウェブサイトに表示されているタイトルを完全な形で記述する。特殊文字は文字コード(U+FF-8)を使用して記述する。省略形や略語は記述しない。</p> <p>冠詞を含めること。例えば、「The Holocene」は「Holocene」ではなく、正式名称である「The Holocene」を採用する。定期刊行物(雑誌や会議録)には、固有のタイトルを記述する。</p> <p>変遷前は、当該タイトルが使用された期間を記述し、独立したタイトルとして登録する。モグラフィ(会議録)における個別タイトルまたは電子書籍は、個別タイトルとして登録する。パッケージ(コレクション)は個別タイトルとしてレコードを作成せず、ファイル名として記述し、別ファイルとして流通させる。会議録のシリーズは、定期刊行物として扱い、シリーズ内の個々の刊行物はモグラフィとして扱う。</p> <p>【ナレッジベース管理者向け補足】 関連するタイトル同士が適切にリンクできる仕組みを構築する。</p>	
2	Submitted by, Create date	作成者, 作成日		*					レコード登録時に自動で設定される。	
3	Title transcription	タイトル読み	title_transcription		*			*	タイトルの言語が日本語(jpn)の場合、必ず記述する。分からずはしない。 例:「ケンキュウキョウ」「Dreamニュース」	
4	Status	状態		*					レコードの公開状態を以下から選択する。 ・Inactive - 非公開 ・Active - 公開	
5	Title alternative	その他のタイトル(他の言語でのタイトルなど)	title_alternative		*			*	<p>その他のタイトル(他の言語等によって記述されたタイトル)を記述する。以下の優先順で1つだけ記述する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他の言語のタイトル記述 2. 同一言語のタイトルの別表記 <p>省略形や略語は記述しない。</p>	
6	Provider/Package name	プロバイダー/パッケージ名		*					<p>プロバイダーおよびパッケージ名を選択肢の中から設定する。ハイフンありとハイフンなしのパッケージ名から1つずつ、計2つまで設定することができる。この項目のデータは、レコードをエクスポートする際のファイル名となる。</p> <p>【KBART拡張形式】 プロバイダー名-パッケージ名-資料種別-アクセスモデル-YYYY-MM-DD.txt 例:2015年3月9日に検索した、横浜国立大学で発行している電子ジャーナル全ての場合 FreshlyAccessibleJapaneseTitles_YokohamaNationalUniversity_2015-03-09.txt 例:2015年3月9日に検索した、全タイトルの場合 AllTitles_2015-03-09.txt</p> <p>【KBART2拡張形式】 プロバイダー名-リジョン/コンソーシアム名-パッケージ名-資料種別-アクセスモデル-YYYY-MM-DD.txt 例:2015年3月9日に検索した、横浜国立大学で発行している電子ジャーナル全ての場合 FreshlyAccessibleJapaneseTitles_GlobalYokohamaNationalUniversity_2015-03-09.txt 例:2015年3月9日に検索した、無料雑誌をタイトルの場合 AllGlobalAllTitles-Serial-F_2015-03-09.txt</p>	
7	Language	言語	language	*				*	ISO 639-2 (bibliographic) で定義された文字コードを設定する。(http://www.loc.gov/standards/iso639-2/php/code_list.php)	
8	Access type	アクセスモデル	access_type	*		*	*		<p>アクセスモデルを以下から選択する。</p> <p>P: Paid - 定期購読や買切りによる購入等、コンテンツのアクセスが有料契約により提供される場合 F: Free - オープンアクセスモデル(ゴールドおよびグリーン)によりコンテンツのアクセスが無料で提供される場合</p> <p>一部のコンテンツのみがオープンアクセスや無料公開である場合は、「P」を使用し、100%無料公開の場合にのみ「F」を使用する。</p> <p>無料と有料のコンテンツを合わせ持つハイブリッドタイトルの場合、無料アクセスの範囲、有料アクセスの範囲を明示するために、タイトルを分割して記述する。 例:1年間の「Moving Wall」(利用制限)が設定され、最新1年分は有料で提供されるタイトルの場合、最新1年分のレコード(アクセスモデル:P)、利用可能範囲:1年)とそれ以前のレコード(アクセスモデル:F、利用可能範囲:1年以前)を分割して作成する。</p>	P F
9	Publication type	資料種別	publication_type	*		*	*		資料種別を以下から選択する。 ・Serial - 雑誌や会議録 ・Monograph - 電子書籍や会議録における個別タイトル	Serial Monograph
10	Coverage depth	カバー範囲	coverage_depth	*		*	*		<p>カバー範囲を以下3つから選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Fulltext - 論文の全てのフルテキストが利用可能である場合 フルテキストがプリント版の内容と一致しない場合は注記する(例えば、「挿絵・図表は除外」等)。 ・Selected articles - 一部の論文のフルテキストが利用可能である場合 特別な方針等により、多数論文が省かれている場合にのみ使用する(例えば、研究論文のみを公開し、レターや書評は非公開とする雑誌、または特定の主題分野の論文のみを公開するデータベース等)、掲載方針は注記に記述する。技術的な問題で論文が抜けている場合は、カバー範囲を「selected articles」に設定しない。 ・Abstracts - 抄録のみ利用可能である場合 <p>一部の分野のみフルテキストが提供されるコンテンツには「Selected articles」を設定する。 雑誌タイトルとしての網羅性が低い(抜けている論文の方が多い)場合は、レコードを登録しない。 1タイトルの提供期間に12ヶ月以上の空白期間が含まれている場合は、レコードを複数に分割して登録する。</p> <p>【補足】 KBART2の定義では、値をセミコロンで区切って併用することもできるが、ERDB-JPでは最も適切な値を1つのみを選択する方式を採用する。 * 例:雑誌の掲載範囲が一部論文の抄録のみである場合(抄録索引データベースに多い)、「Abstracts; Selected articles」と記述</p>	Fulltext Selected articles Abstracts
11	Notes	カバー範囲に関する注記	notes		*	*	*		コンテンツのカバー範囲について詳細な説明が必要な場合に記述する。「レターや書評を除く」といった特別な掲載方針等の説明に使用する。 タイトルがハイブリッドのオープンアクセスである場合、オープンアクセスの掲載方針について説明する必要がある。例えば、ある論文が著者による掲載料に基づいたオープンアクセスである場合、「特定の論文は、著者支払い型モデルによるオープンアクセス」といった表記となる。この注記はリンクリゾルバ上に表示されるため、エンドユーザーは利用できないコンテンツを認識できるようになる。	
12	The last name of the book's first author	第一著者	first_author		*	*	*		モグラフィの場合は、第一著者の姓を記載する。 定期刊行物の場合は、この項目を使用しない。	
13	Publisher name	出版者	publisher_name		*	*	*		出版者は、パッケージが複数の出版者のコンテンツから構成される場合や、利用可能な全てのコンテンツのA to Zリストとしてパッケージとプラットフォームと関連付ける場合に重要となるため、明記することを強く推奨する。	
14	Title-level URL	タイトルレベルURL	title_url	*		*	*		タイトルのホームページのURLを記述する。 定期刊行物の場合は、利用可能な巻号リストが掲載されているサイトを採用する。 モグラフィの場合は、目次が掲載されているサイトを採用する。 リンク切れ防止のため、Permalink、HandleシステムによるURL、タイトルレベルのDOI等、リンク切れの起こらないURLを記述する。 (インターネットアーカイブや検索エンジンのキャッシュ等は記載しない。)	
15	Print-format identifier	プリント版ISSN / プリント版ISBN	print_identifier		*	*	*		<p>プリント版のISSN(国際標準連続刊行物番号)またはISBN(国際標準図書番号)を記述する。ISSNはハイフンとチェックディジットを含めた5桁で記述し、ISBNはハイフンなしの13桁(ISBN-13)で記述する。 複数のISSNまたはISBNが一つのタイトルに付与されている場合は、プリント版のISSNまたはISBNを優先的に記述する。</p> <p>【ナレッジベース管理者向け補足】 補足の識別子を記述したい場合は、データ項目の最終項目(access_type)第25項目の後に追加データとして記述することもできる。</p>	ISSN: XXXX-XXXX ISBN: XXXXXXXXXXXXX XXX

No.	項目(英語)	項目(日本語)	KBART項目名	必須	あれば必須	KBART1	KBART2	拡張項目	ガイドライン	例
16	Online-format identifier	eISSN / eISBN	online_identifier		*	*	*		電子版の識別子が付与されている場合に記述する。ISSNはハイフンとチェックディジットを含めた9桁で記述し、ISBNはハイフンなしの13桁(ISBN-13)で記述する(リンクリソバが必要に応じて10桁から13桁のISBNに変換可能なため)。 【ナレッジベース管理者向け補足】 補足の識別子を記述したい場合は、データ項目の最終項目('access_type'第25項目)の後に追加データとして記述することもできる。	ISSN: XXXX-XXXX ISBN: XXXXXXXXXX XXX
17	Date of first issue available online	最古オンライン巻号の出版年月日	date_first_issue_online		*	*	*		定期刊行物の場合、利用可能な最古の号の発行日をYYYY-MM-DD形式で記述する。 刊行頻度が年一回であれば、YYYY形式で記述し、月刊や季刊の場合は、YYYY-MM形式で記述する。日付も含めた出版年月日がある場合は、YYYY-MM-DD形式で記述する。 モノグラフの場合は、この項目を使用しない。 日付の形式は、ISO 8601に準拠する。数字ではない日付(例:春、夏)はISO 8601に準拠していないため、推奨しない。このような場合は巻および号による記述が望ましいが、数字ではない形式で記述する場合は、コンテンツ提供者は情報を提供している期間中、一貫した表記で記述する。	YYYY-MM-DD YYYY-MM YYYY
18	Date of last issue available online	最新オンライン巻号の出版年月日	date_last_issue_online		*	*	*		定期刊行物の場合、利用可能な最新号の発行日をYYYY-MM-DD形式で記述する。 日付の形式は、ISO 8601に準拠する。数字ではない日付(例:春、夏)はISO 8601に準拠していないため、推奨しない。このような場合は巻および号による記述が望ましいが、数字ではない形式で記述する場合は、コンテンツ提供者は情報を提供している期間中、一貫した表記で記述する。 刊行中の定期刊行物およびモノグラフの場合は、この項目を使用しない。	YYYY-MM-DD YYYY-MM YYYY
19	Embargo information	エンバゴ情報	embargo_info		*	*	*		エンバゴ情報は複雑であるため、ISO 8601に準拠した形式での記述を推奨する。ISO 8601は柔軟性が高いため、様々なタイプの掲載禁止期間情報の記述が可能。 エンバゴ情報はタイプ、期間、単位から構成される。これらの要素をスペースを含まず、単一の文字列としてタイプ、期間、単位の順番で記述する。 ・タイプ - エンバゴ情報には、「12ヶ月前」等といった時間的な制限「Moving Wall」が設けられている場合が多い。コンテンツへのアクセスが「Moving Wall」の時点から始まる場合は、ISO 8601上で「recurring」を示す「R」となる。アクセスが「Moving Wall」の時点で終わる場合は、ISO 8601上で「period」を示す「P」となる。 ・期間 - 掲載禁止期間の長さを表す整数を記述する。 ・単位 - 「期間」項目で使用される単位の番号で、日は「D」、月は「M」、年は「Y」を使用する。記述を簡素化するために、「365D」は常に1年に相当し、「30D」は、閏年や30日未満の月が存在したとしても、1ヶ月として記述する。「単位」項目は、エンバゴ情報がどの程度詳細に設定されているかを示しており、「Moving Wall」の移動頻度を表している。 例: ・新聞記事データベースの中には過去1年間のコンテンツのみを提供するモデルがあり、毎日最新号が追加される1年経過した号へのアクセスも毎日削除される。この場合、アクセス可能な最古号が毎日変更されるため、エンバゴ情報は「R365D」となる。 ・雑誌には契約年における1月の初号からアクセスを可能にし、次の年の1月には前年1月の号にアクセスを不可にするモデルがあるが、この場合、毎年1回のコンテンツのアクセスとなる。アクセス可能な最古号は1年に1回変更されるため、掲載禁止期間情報は「R1Y」となる。 ・当年度以外の全てのコンテンツにアクセスが可能な場合は「P1Y」となる。 ・昨年及び当年度に出版されるコンテンツからアクセスが可能な場合は「R2Y」となる。 ・過去6ヶ月間に出版された全てのコンテンツにアクセスが可能な場合は「R180D」となる。 ・過去6ヶ月間の出版物以外の全てのコンテンツにアクセスが可能な場合は「P6M」となる。 掲載禁止期間の開始と終了の両方を記載する場合、二つの掲載禁止期間情報をセミコロンで連結して記述する。例えば、「R10Y:P30D」は最新の30日を除いた過去10年の全てのコンテンツにアクセスが可能という記述となる。	[R, P][length][D, M,Y]
20	Number of first volume available online	提供最古巻	num_first_vol_online		*	*	*		定期刊行物の場合は、利用可能な最古の巻を記述する。「vol.」「v.」「巻」のようなラベルは含めない。文献を引用するためのhouse style(シカゴ方式やAPA方式等)を採用しても良く、適切であれば英数字を使用しても良い。巻および号がなく、通号のみ付与されているタイトルは通号をこの項目に記述する。 モノグラフの場合は、この項目を使用しない。 【ナレッジベース管理者向け補足】 ナレッジベース開発者はソースとの照合率を最大限に高めるために、OpenURLクエリにおけるデータ正規化のロジックと同等のものを用いる必要がある。	
21	Number of first issue available online	提供最古号	num_first_issue_online		*	*	*		定期刊行物の場合は、利用可能な最古の号を記述する。「no.」「n.」「号」のようなラベルは含めない。サブタイトルやパートは記述対象外とする。文献を引用するためのhouse style(シカゴ方式やAPA方式等)を採用しても良く、適切であれば英数字を使用しても良い。 モノグラフの場合は、この項目を使用しない。 【ナレッジベース管理者向け補足】 ナレッジベース開発者はソースとの照合率を最大限に高めるために、OpenURLクエリにおけるデータ正規化のロジックと同等のものを用いる必要がある。	
22	Number of last volume available online	提供最新巻	num_last_vol_online		*	*	*		定期刊行物の場合は、利用可能な最新の巻を記述する。「vol.」「v.」「巻」のようなラベルは含めない。文献を引用するためのhouse style(シカゴ方式やAPA方式等)を採用しても良く、適切であれば英数字を使用しても良い。 巻および号がなく、通号のみ付与されているタイトルは通号をこの項目に記述する。 刊行中の定期刊行物およびモノグラフの場合は、この項目を使用しない。 【ナレッジベース管理者向け補足】 ナレッジベース開発者はソースとの照合率を最大限に高めるために、OpenURLクエリにおけるデータ正規化のロジックと同等のものを用いる必要がある。	
23	Number of last issue available online	提供最新号	num_last_issue_online		*	*	*		定期刊行物の場合は、利用可能な最新の号を記述する。「no.」「n.」「号」のようなラベルは含めない。サブタイトルやパートは記述対象外とする。文献を引用するためのhouse style(シカゴ方式やAPA方式等)を採用しても良く、適切であれば英数字を使用しても良い。 刊行中の定期刊行物およびモノグラフの場合は、この項目を使用しない。 【ナレッジベース管理者向け補足】 ナレッジベース開発者はソースとの照合率を最大限に高めるために、OpenURLクエリにおけるデータ正規化のロジックと同等のものを用いる必要がある。	
24	NCID	NCID	ncid		*	*	*		NACIS-CATの書籍レコードIDを記述する。 ISSN/ISBNが不明な場合は、可能な範囲でNCIDを調査して記述する。	
25	NDL Call No.	NDL請求記号	ndl_calno		*	*	*		NDL請求記号を記述する。	
26	NDL Bibliographic ID	NDL書誌ID	ndl_bibid		*	*	*		NDL書誌IDを記述する。	
27	J-STAGE CDJOURNAL	J-STAGE資料コード	jstage_code		*	*	*		J-STAGE資料コードを記述する。	
28	Comment	コメント欄							該当データに関する修正・削除依頼がある場合に記述する。 コメント欄の詳細な利用方法は、ERDB-JPドキュメント「修正・削除」を参照する。 コメント欄はバートナー機関のみ確認できる。	
29	Title identifier	タイトルID	title_id	*		*	*		レコード登録時に自動で設定される。レコード詳細画面URLの末尾の数字がタイトルIDとなる。 【ナレッジベース管理者向け補足】 タイトルIDを使用しコンテンツへのリンクを生成する場合は、提供元独自のタイトルIDを記述する。複数のIDが存在する場合は、実際にリンクに用いるIDのみを記述する。外部にタイトルIDを提供する必要がない場合や、独自のタイトルIDが存在しない場合は、この項目を使用しないこともできるが、タイトルIDを付与している場合は記述することが望ましい。会議録や電子書籍のソースでは、タイトルIDが会議録または電子書籍の個別タイトルをparent_publication_title_id(シリーズタイトルID)に紐づける重要な要素となるため、必ず記述する。	
30	Date of monograph first published in print	モノグラフの最古プリント出版年月日	date_monograph_published_print		*	*	*		会議録または電子書籍が最初にプリント版で出版された日付を記述する。ポーンデジタルのコンテンツ(プリント版が存在しない)の場合、必ず記述する。日付の形式は、ISO 8601に準拠する。 可能な限り発行日まで記述する。	YYYY-MM-DD YYYY-MM YYYY
31	Date of monograph first published online	モノグラフの最古オンライン出版年月日	date_monograph_published_online		*	*	*		会議録または電子書籍が最初にオンラインで出版された日付を記述する。モノグラフの場合は、必ず記述する。日付の形式は、ISO 8601に準拠する。 紙媒体から作成したPDFファイル等デジタルコンテンツについては、「モノグラフの最古オンライン出版年月日」には、オンラインの公開年月日を記述する。オンライン公開年月日が記載されていない場合は、冊子の出版年月日を記述する。	YYYY-MM-DD YYYY-MM YYYY

No.	項目(英語)	項目(日本語)	KBART項目名	必須	あれば必須	KBART1	KBART2	拡張項目	ガイドライン	例
32	Volume for monograph	モノグラフのシリーズ番号	monograph_volume		*		*		シリーズものの電子書籍や会議録の場合、シリーズ内の巻を記述する。この項目は英数以外の文字列も使用できる。	
33	Edition for monograph	モノグラフの版次	monograph_edition		*		*		該当する電子書籍について、版に関する情報を記述する。「改訂第3版」のような英数以外の文字列も使用できる。	
34	First editor	第一編者(モノグラフの場合にのみ使用)	first_editor		*		*		電子書籍や会議録において編者が存在する場合は、第一編者の姓を記述する。定期刊行物の場合は、この項目を使用しない。	
35	Parent publication identifier	シリーズのタイトルID	parent_publication_title_id		*		*		シリーズものの電子書籍や会議録の場合、属するシリーズタイトルのIDを記述する。	
36	Preceding publication identifier	変遷前誌のタイトルID	preceding_publication_title_id		*		*		雑誌や会議録シリーズにおいてタイトル変更があった場合、変遷前誌のタイトルIDを記述する。この項目の値は、同じファイル内の変遷前誌のタイトルIDと同一のものを記述する。	
37	Ichushi Code	医中誌ジャーナルコード	ichushi_code		*			*	医中誌ジャーナルコードを記述する。	
38	Deleted	削除フラグ	deleted					*	レコードを一括削除する場合に使用する。「一括登録」メニューからインポートするファイルにおいて、この項目に「1」を記述しておく、当該レコードが削除される。	

【補足】データ作成単位の基準

- 1) 雑誌タイトルとしての網羅性がない(利用可能な論文が概ね3分の2を下回る)場合は、レコードを登録しない。1タイトルの提供期間に12ヶ月以上の空白期間が含まれている場合は、レコードを複数に分割して登録する。
- 2) 無料と有料のコンテンツを合わせ持つハイブリッドタイトルの場合、無料アクセスの範囲、有料アクセスの範囲を明示するために、タイトルを分割して記述する。
- 3) 定期刊行物において、巻号体系が別なのは、同じISSN/タイトルでも別レコードとして登録する(巻号体系が同じものは、タイトル変遷を除き、同一レコードとする)。
- 4) タイトル変遷の場合は別レコードを作成し、変遷前誌のタイトルID(preceding_publication_title_id)に変遷前誌のタイトルID(title_id)を記述する。